

独法化した広尾町国保病院の計良院長に聞く

2019/05/09 6:00



今後の展望などを語る計良院長

【広尾】町国保病院（町公園通南4、48床）は新年度から、道内の公立病院では初となる地方独立行政法人に移行し、約1カ月が経過した。連携する北斗病院（帯広）の整形外科顧問で院長に就任した計良基治氏（64）に現在の手応えや今後の展望などを聞いた。（松村智裕）

－4月に赴任し感想は。

町立病院の職員の方が協力的なので動きやすい。整形外科医として常勤し、認知度が高まったのか4月後半から患者さんが増え始めた。60歳以上の方が多く、幹部職員による会議を毎週火曜日に行い、PDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルで課題を1週間単位で改善し、それを積み重ねている。病院をPRするため、近いうちにえりも町（日高管内）で健康講演会を行う。

－北斗病院との情報共有は。

電子カルテを活用している。先日、吐血した患者が運ばれ、北斗病院から来ていた消化器内科医が胃カメラ検査を行った。北斗へ救急車で移送した際、胃カメラ画像やカルテ内容を北斗に送り、迅速に処置ができた。5月中にはCT（コンピューター断層撮影）画像も北斗で見られるようにする。ICT（情報通信技術）で広尾から帯広までの距離を縮めている。

－総合診療医を養成する「十勝地域医療研究所」など新たな取り組みは。

北斗の専門医による耳鼻咽喉科や総合診療科が新設され、専門性の高い医療を提供している。夜には総合診療などに関するカンファレンスを行い、広尾の常勤医と北斗の医師が交流し、互いの気付きやスキルアップになっている。そのような積み重ねが十勝地域医療研究所としての医師の養成にもつながっていく。北斗の医師が地域医療に魅力を感じることもあると思う。

－厚労省が公立病院の再編統合を検討している。今後の展望は。

診療報酬改定などが何度もあり、今の医療情勢は非常に難しい。自治体だけで医療を運営していくのは難しい時代といえる。ただ、民間病院だと不採算部門は切っていく。地方独立行政法人は公設公営で自治体として責任を持ちながら、民間がマネジメントをする。公立病院をうまく運営させるには、独法化は間違っていないと思う。これからやりたいことを推し進められる印象があり、すごく希望の持てる体制だと感じる。

<けいら・もとはる>

1954年後志管内倶知安町出身。旭川医大卒。整形外科専門医で医学博士。社会医療法人北斗新得クリニックの前院長。